

## 配置のコンセプト等（案）

### （1）壁画について

#### ① 配置場所について

- 広く市民の方が見ることができる場所とする。
- 壁画は、雨、紫外線等の影響を受けやすいため、できる限りこれらの要因を排除できる場所とする。

#### ② 野見宿禰とギリシャの女神

- これらの作品は、対をなすもので、かつ、シンボリックなものであることから両作品をひとつのものとして、正面性のある場所に設置する。

#### ③ 壁画のまとめりについて

- 時代背景や文化を継承するための重要な資料であり、1964年オリンピックの記憶を伝承するため、ひとまとまりの1964年オリンピック記念コーナー（仮）を設置する。
- 市民が散策できる位置とする。

### （2）炬火台（聖火台）について

- 炬火台は、極めて象徴的なものであり、レガシー時には象徴的な試合やイベントの際には、点火出来る運用を行う。
- 旧競技場においては、“野見の宿禰”、“ギリシャの女神”の壁画と“炬火台”は極めて象徴的なものであるため、できれば、この3点を集約し、1つのフレームに収まるような場所とする。（炬火台の利用については法的確認が必要）

### （3）銘盤について

- 広く市民の方が見ることができる場所とする。
- 旧国立競技場で開催された過去の大規模な大会の銘盤であるため、できる限りひとまとまりとする。
- 2020年オリンピック・パラリンピック終了後においても、世界的な大会が開始されることを鑑み、冗長性のある場所を選定する。

### （4）出陣学徒の碑

- 学徒出陣のゲートがあったと思われる場所（旧国立と同様の位置）に設置する。

## (5) 彫刻品（銅像）について

それぞれの作品の特徴を整理し、配置する。

### ① 健康美、青年像

- 本2作品については、彫刻として象徴的なもので、対をなしているものであったため、新配置計画についても同様に對をなすものとする。
- 旧配置では、オリンピック・パラリンピック時の正面ゲートに配置されていたことから、新計画では、来場者が一番多いと想定するゲートの場所とする。

### ② 波、無題

- 波、無題とも“水”に関連する作品であることから“水辺の里庭”のゾーンに配置する。

※今後の設計の中で、地下鉄に干渉しないように幅広めに想定しておく。

### ③ 円盤投げ像、槍投げ像、御者像

- それぞれの競技を表現しており、これらを一群として配置する。
- 広く見てもらうため、ゲート付近に設置する。